

## 藤田浩子の 少し昔のこと 〈104〉

## 紅葉のない島

紅葉の続きです。10月の終わりごろ、奄美大島に4日ほど行ってきました。最後の日は奄美の山道を通って、昨年できたばかりの「奄美大島世界遺産センター」という所に行って、本物ではありませんでしたけれど、本物のように作られた物や映像で、クロウサギが子どもを穴の中に置いて餌探しにいく度に穴の出入り口をふさいでいく様子や、ハブが他の蛇を飲み込む様子など映像で見せてもらったり、ルリカケスやケナガネズミなどの動物が木の上にいるのを見てきました。部屋全体が奥深い森になっていて、ルリカケスの鳴き声が聞こえてきたり、夜の場面では月が煌煌と照っていたり、突然降るスコールの雨の音に驚き、本当に降ってきたかと思うほどでした。

そのセンターに行くまで、奄美の山道をクルマで



走っていきました。

奄美には何度も行ったのですが、秋に行ったのは初めてでした。もう10月も末だし、少しは紅葉しているかと思ったら、全く紅葉していませんでした。山は緑一色、といっても濃い緑や薄い緑、黄みがかった緑など、緑にもいろいろあってそれにきれいな山々でしたが紅葉はしていませんでした。聞けばそもそも奄美にはイチョウもモミジもナナカマドもないそうで、紅葉することがないのだとか。日本は全国的に「春は桜」（奄美の桜祭りは2月）で「秋は紅葉」と思い込んでいた私としては「秋の景色」としてなにか物足りなさを感じてきましたけれど、私の季節感と奄美の方々の季節感とはかなり違うようでした。日本は広いですね。その代わり海はきれいでした。その海のこのあたりに夕日が沈むのだと言われましたが、3時の飛行機に（羽田—奄美の直行は1日1便）乗らなければならない私としては、夕日が沈むまで待ってはいただけませんでした。残念。

リレー連載 <234>

## わたしの大好きな絵本

Hoshiko

あなたは、夜、何を思いながら眠りにつきますか？そして、ちいさな子どもたちは、どんな気持ちで布団に入るのでしょね。夢の世界を想像してワクワクしてる？実は、もっともっと遅くまで起きていたいのもかもしれません。

「おやすみゴリラくん」は、やさしく読者に寄り添い、穏やかな気持ちにさせてくれる本です。

真っ暗な夜の動物園。管理人のおじさんは、動物たちの檻を見回ります。「ぐっすり おやすみ…」

「たのしいゆめみなね…」

## 『おやすみゴリラくん』

ペギー・ラスマン作・絵

いとうひろし訳 徳間書店

ところが、いたずらもののゴリラくんは、おじさんの鍵をこっそりいただいて、檻を開けていきます。次はどうなるんだろうと、ページをめくる手が止まりません。作者のユーモアたっぷりの文章と絵を、みんなで楽しみたい一冊です。ピンクの風船の行方にも注目してみてくださいね。

今夜は、どうぞ素敵な眠りについてください。おやすみなさい…。

